

資料 2 - 2

今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議（第5回）
令和2年9月24日（木）

コロナ禍を踏まえたキャンパスの在り方について（案）

今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議

1. コロナ禍を踏まえた教育研究の方向性

1. コロナ禍を踏まえた教育研究の方向性

- 現在、各大学等においては、それぞれの実情を踏まえ、感染拡大防止と学修機会の確保・研究活動の継続を両立するため、デジタル技術を活用したオンラインでの教育・研究等について、試行錯誤しつつ様々な取り組みが進められている。
- オンラインの有効性が示された一方、対面でなければ対応が困難なものや成果が生じにくいものなど、課題に関する意見もある。

有効性の例

(教育面)

- ・ 自分に合ったペースで学修が可能
- ・ 対面より質問が活発な場合もある 等

(研究面)

- ・ 世界の研究者と頻繁な議論が可能
- ・ 会議が効率的に進められる 等

✓ICT化の更なる推進が重要

課題の例

(教育面)

- ・ 実験・実習系の授業は対応が困難
- ・ 丁寧な指導が必要な対話型授業は対応が困難 等

(研究面)

- ・ ゼロからアイデアを練るような深い議論は困難
- ・ 日常的な知的交流機会の減少 等

(生活面)

- ・ 人間関係の形成に限界
- ・ 多様な価値観に触れ合う機会の減少 等

✓対面での交流機会の確保が重要

- また、今後、新たな感染症や災害等の不測の事態が発生した際に、教育研究を継続するための備えを行うことが重要

⇒ポストコロナ社会においては、デジタル技術を活用したオンラインによる教育研究と、キャンパスにおける対面での教育研究の双方のメリットをいかした効果的なハイブリッドを目指していくことが重要。

2. コロナ禍を踏まえた大学施設の方向性

2. コロナ禍を踏まえた大学施設の方向性

⇒ オンラインと対面の効果的なハイブリッドを目指すためにも、今後の大学キャンパスは以下のように転換することが重要

(大学外)

**オンラインを最大限活用し
時間や場所に制約されない教育研究**

**対面による交流・対話の促進や
深い学びの実現・信頼関係の醸成**



自宅や遠隔地で
講義を受講



授業配信のできる
スタジオ



自分のペースで講義を受講
できるスペース



アクティブ・ラーニング・
スペース



学生同士の交流空間



リモートで
実験機器を操作



遠隔操作が可能な
実験機器を備えた研究室
(現地サポートスタッフが
実験試料をセットする様子)



時間にとらわれずに
海外の大学とのミーティング
が可能な会議室



他大学や企業との
共同研究のための
オープンラボ



研究室の枠を越えた
コラボレーションを生み出す
オープンスペース

⇒ その際、「新たな日常」に対応するため、状況に応じて三密を避けることができる施設のフレキシブル化・分散化や、衛生面に考慮した環境であることが必要

3. コロナ禍を踏まえて至急対応が必要な施設整備

3. コロナ禍を踏まえて至急対応が必要な施設整備 「新たな日常」に対応した環境改善整備

《「新たな日常」に対応するための感染症対策を講じた施設整備》

従来



- ・換気設備が不十分



- ・手洗い場が蛇口式のため、接触機会が増えてしまう。

改善例



①換気・空調の確保

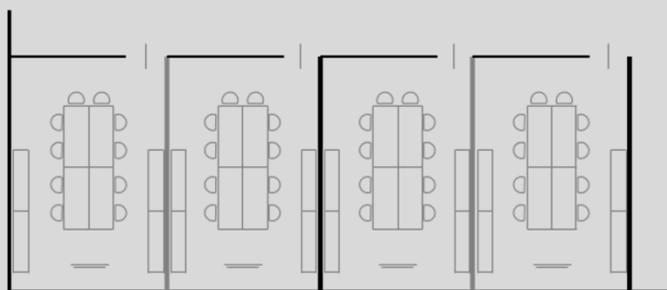
- ・ 講義室や実験・実習室等の教育研究のための施設だけでなく、食堂や学生寮等の学生の日常空間についても、十分な換気が可能となるよう、適切に換気・空調設備を配置

②トイレ等の環境改善

- ・ 接触による感染リスクを軽減できるよう、トイレの水栓や、建物出入口のドアを自動化

3. コロナ禍を踏まえて至急対応が必要な施設整備 「新たな日常」に対応した環境改善整備

従来



- ・小規模スペースのため机配置等のレイアウトが限られ密になりやすい。

改善例



③ 研究室・講義室等のフレキシブル化、分散化

- ・用途に応じて、机・椅子等のレイアウト変更により、三密回避が可能となるような、多目的に使用可能となるスペースを十分に確保
- ・ホームルーム等を持たない学生が講義のない時間帯に特定の場所に密集しないよう、自学自習スペースを十分に確保し分散化
- ・主たる居場所である図書館・大学会館等の多目的化による有効活用

④ ICT設備

- ・各席で電源が確保できるとともに、まとまった充電スペースを設置
- ・双方向のコミュニケーションが円滑にできるインターネット通信環境の確保
- ・相互交流や連携が可能となる大学間ネットワークの整備
- ・実験・実習分野のオンライン化を可能とする研究設備の遠隔化・自動化

4. コロナ禍を踏まえた大学施設の方向性と「イノベーション・コモンズ」との関係について

4. コロナ禍を踏まえた大学施設の方向性と「イノベーション・コモンズ」との関係について

「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の考え方

- 今後の国立大学等施設の方向性として、中間まとめで示された「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とは、あらゆる分野・場面・プレイヤーが共に創造活動を展開する「共創」の拠点
- その実現のためには、アクティブ・ラーニング・スペースやオープンラボなど、交流や対話、日常的なコミュニケーションを誘発するような施設整備が重要
- また、対面でのコミュニケーションとICTによるコミュニケーションを使い分けることができ、さらにキャンパスがその両方のコミュニケーションが融合するハブとして機能するよう、キャンパスのどこでもICTを活用できる環境の構築が重要
- このような「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の考え方は、コロナ禍を踏まえて必要とされる、オンラインと対面の効果的なハイブリッドの実現と方向性が一致している

⇒ キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」へと転換していくことが必要



「イノベーション・コモンズ」イメージ